

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 6 号）の送付について

このことについて、つぎのとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしく
お願いいたします。

記

1 情報の内容 **キウイフルーツかいよう病 Psa 3 系統の発生拡大防止に向けた
春季対策の徹底**

2 発生状況

キウイフルーツかいよう病 Psa3 系統は平成 26 年に本県で初めて発生を確認し、本県での
発病確認面積は、平成 26 年は東・中予で約 6.9ha、平成 27 年は東・中・南予で約 1.9ha
となっている。また、全国での発生は、愛媛県を含め平成 26 年は 7 県、21.96ha、平成 27
年 9 月現在、13 都県、43.59ha で発病が確認されている。

3 発生の見通し

- (1) 今冬は、暖冬傾向で、適度に降雨があったためキウイフルーツの発芽は早まり、発病
樹での樹液の流出が早くから見え始めるものと予想される。
- (2) 平成 28 年 3 月 17 日高松気象台の発表した 1 か月気象予報では、気温、降水量ともに
平年並とされている。しかし、期間の前半は気温の変動が大きいとされ、低気圧の影響
による強風の多い季節となるため、新梢伸長期の強風雨は感染拡大を助長しやすい。

4 拡散防止対策

- (1) 園地見回りを頻繁に行い病徴を見逃さないよう早期発見と病徴部の早期除去を行う
(伐採基準については、平成 27 年 12 月改訂の「キウイフルーツかいよう病 Psa3 型の防
除方針」に基づき発病程度に応じて対応する)。
- (2) 各地域の栽培暦の基幹防除を必ず行い、幼葉期は気孔、水孔、傷口から感染しやすく、
さらに、強い風雨により発病が著しく助長される。特に、発病園地の近くでは強風を伴
う降雨後には速やかにアグリマイシン-100 等の抗生物質剤を応急散布する。
- (3) 新梢伸長期は、風で容易に枝折れしやすいので園地の防風対策を強化する。
- (4) 発芽までは ic ボルドー 66D の 50 倍、発芽後は、コサイド 3000 の 2000 倍（使用時期：収穫
後～果実肥大期、葉害軽減のため炭酸カルシウム剤 200 倍を加用）、アグリマイシン-100
の 1,000 倍（使用時期：落花期まで 3 回以内）、アグレプト水和剤 1,000 倍（使用時期：収
穫 90 日前まで 4 回以内）、マイシン水和剤 1,000 倍（使用時期：収穫 90 日前まで 4 回以内）
またはカスミン液剤 400 倍（使用時期：収穫 90 日前まで 4 回以内）のいずれかを使用する。

5 その他

平成 28 年度よりキウイフルーツかいよう病 P s a 3 型の検定は、愛媛県病害虫防除所
(松山市上難波甲 311 電話 (089) 993-2020 (農林水産研究所内)) で実施する。
愛媛県庁農産園芸課環境農業係 電話 (089) 912-2555 を通じて検定を依頼すること。